日本イメージ心理学会第24回大会

（TKP東京駅カンファレンスセンター）

プログラム・発表論文集

東京駅 丸の内口

2023年 12月9日（土）・10日（日）

ご挨拶

今年度の日本イメージ心理学会第24回大会は，12月9・10日（土日）に東京駅カンファレンスセンター（東京駅八重洲口）で開催することになりました。岩手大学での前回大会に引き続き，身体性を伴うリアルなインタラクションが可能な対面形式の環境下で，皆様それぞれが取り組んでおられる新たなイメージ研究について議論を深めてまいりたいと思います。

今回の第24回大会は，本学会では初めての試みとなりますが，学会主催（常任運営委員会が中心となる大会運営）で開催することになりました。開催地の制約から自由になりましたので，大会会場は皆さんが集まりやすく利便性のよい東京駅八重洲口そばに準備することができました。多くの会員の皆様，さらにはイメージ研究に関心をもつ多くの若手心理学者の皆さんの参加を期待しています。新しい試みでの学会開催となりますが，会員皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

日本イメージ心理学会第24回大会準備委員会

大会準備委員長
松岡 和生　（長崎総合科学大学）

大会準備委員 事務局長
森本 琢　（北海道大学）

大会準備委員
鈴木 賢男　（金沢学院短期大学)
髙橋 純一　（福島大学）
宮崎 拓弥　（北海道教育大学旭川校）
本山 宏希　（茨城大学）
百瀬 容美子　（常葉大学)

ご案内

(1) 会期・会場

会期：2023年12月9日（土）・10日（日）

会場：TKP東京駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム10B（10階）

東京都中央区八重洲1丁目8-16

https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-tokyoeki-central/

https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-tokyoeki-central/access/　より転載しています

＜交通案内＞

JR 山手線　東京駅　八重洲中央口　徒歩 1 分
JR 総武線　東京駅　八重洲中央口　徒歩 1 分
JR 横須賀線　東京駅　八重洲中央口　徒歩 1 分
東京メトロ丸ノ内線　東京駅　自由通路経由　徒歩 7 分

(2) 大会日程

第 1 日目	12月9日（土）
受付開始	12:10～
研究発表 1	12:40～14:00
シンポジウム	14:15～15:45
招待講演	16:00～17:20
総会	17:30～18:00
懇親会	18:30～20:30

第 2 日目	12月10日（日）
受付開始	9:10～
研究発表 2	9:30～11:10
研究発表 3	11:30～13:10

(3) 大会参加のご案内と参加費

12月3日（日）（期限C）までの事前申し込みまでをお受けしますが，12月4日（月）以降のお申し込み（当日参加を含む）は原則としてお受けできませんのでご留意ください。

なお，11月1日以降の参加申し込みにつきましては，参加費は，正会員 予約参加費8,000円，学生会員 予約参加費5,000円，非会員 予約参加費8,000円となります。

また，懇親会参加費は5,000円となります。

(4) 運営委員会

大会Zoom情報とは別に，事務局から運営委員会関係者宛に案内メールが送信されます。

(5) 総会

総会は，12月9日（土）の17:30〜18:00に，会場での対面とオンライン(Zoom) のハイブリッド方式で開催いたします。総会へのオンライン(Zoom) 参加情報については，大会日近くに，会員向けのメーリングリストにて，周知いたします。

また，総会に欠席される会員の方は，以下のGoogle フォームにて，12月8日（金）までに所定の入力および送信をお願いいたします。

日本イメージ心理学会2023年度総会-委任状フォーム
https://forms.gle/X4TSPggKkdXeDvEE9

(6) 研究発表

発表方法：

1．発表は**1発表20分（発表15分，質疑5分）**とし，座長の進行により行います。ベルは，1鈴13分（予鈴），2鈴15分（発表終了），3鈴20分（質疑終了）で鳴らす予定です。
2．**液晶プロジェクターに，ご持参のノートPCを接続できます**（HDMI端子，または，USB Type-C端子）。大会準備委員会のPCをご使用されたい方は事前にご連絡ください。
3．討論での発言者は，必ず最初に所属と氏名を明らかにしてください。
4．研究発表の発表者が欠席した場合は，「発表取り消し」といたします。連名発表の場合，大会準備委員長の承認があれば，発表者を筆頭発表者から連名発表者に変更することができます。ただし，発表者になることができるのは，大会期間中１回に限ります。発表者の欠席などの連絡は，大会本部にお願いいたします。
5．ハンドアウト資料を配付される方は，会場の発表受付にお渡しください。資料は40部程度ご用意下さい。
6．座長は各発表につき１名の方にお願いしてあります。座長はその発表に対するコメンテーター，進行や質疑応答，討論などの司会を担当していただきます。

（7）懇親会

18時30分より「湊一や日本橋八重洲口店（東京駅八重洲北口から徒歩3分）」で開催いたします。大会会場からの経路は以下のとおりです。

なお，お店のコース予約の人数変更が難しいという理由から，大会当日に懇親会への参加をお受けするのは難しい状況です。したがいまして，懇親会に参加を希望される方でまだPayventでのお支払いを済まされておられない方は，Payventで大会参加費のお支払いをされる際に，必ず，懇親会参加費をオプションで選択して，大会参加費と懇親会費を合わせてお支払いください。

また，Payventで，懇親会費をオプションで付けずに参加費のお支払いをされて，その後，懇親会参加にご変更されたい場合は，懇親会追加専用ページをお伝えしますので，以下のアドレスへご連絡下さい。
japan.imagery.association@gmail.com

Google Map より

（8）受付

大会会期中は，ネームプレート（参加証）を胸につけていただきます。当日，ネームプレートおよびネームプレート入れをご持参下さい。

決済サイトのPayventからお支払いされると，お支払い後に自動送付される支払い完了メールを通して，領収書やネームプレートのPDFをダウンロードできるようになります。そのネームプレートのPDFを印刷してネームプレートのサイズに切り取り，ネームプレート入れに入れてご持参ください。

※今大会は，常任運営委員会＋アルファによる主催で，準備委員のほぼ全員が遠方から集まりますので，物品の準備等が通常より困難な状況です。ですので，各自でネームプレート入れをご持参いただけると大変助かります（過去の学会等でご使用されたものでも構いませんし，文具店や百円ショップ等でも購入可能です）。どうかご協力の程よろしくお願いいたします。

（9）大会会場内における飲食について

1．自動販売機がカンファレンスセンターの２階，11階，12階にあります。飲み終わったペットボトルは自販機横のゴミ箱に捨てるか，お持ち帰りください。
2．**会場の規約で，上記の自動販売機で購入したドリンク類以外の食べ物類の部屋への持ち込みは原則できないことになっておりますので，ご協力をお願いいたします**。

（10）大会問い合わせ先と大会ホームページ

1. 大会問い合わせ先アドレスは以下のとおりです。
   japan.imagery.association@gmail.com
   本大会は，常任運営委員を中心としたメンバーで運営するため，イメージ心理学会代表メールアドレスを大会の問い合わせ先とさせていただいております。

2. 大会ホームページは以下のとおりです。
   https://sites.google.com/view/jia2023/

【タイムスケジュール】

第１日目　12 月９日（土）

＜研究発表 1＞　12:40～14:00　　座長　松岡 和生

12:40-13:00

1, 鮮明性測定尺度の視覚項目回答時に生じるイメージ体験が鮮明性測定値に及ぼす影響の検討

立正大学心理学部　〇 福井 晴那
立正大学心理学部　青木 佐奈枝

13:00-13:20

2, 感覚処理感受性と多感覚イメージとの関連性
-鮮明性と感情価に注目した検討-

北星学園大学短期大学部　〇 藤木 晶子
北海道環境健康科学研究教育センター　西原 進吉
山形大学　畠山 孝男
常葉大学　百瀬 容美子

13:20-13:40

3, 静的および動的視覚ワーキングメモリ容量と視覚イメージ容量の基盤となる能力の構造

北海道大学大学院文学研究院　〇 森本 琢

13:40-14:00

4, イメージ統御性をめぐる諸問題

山形大学　〇 畠山 孝男

＜シンポジウム＞　14:15～15:45

イメージ研究と特別支援教育

司会者・企画者・話題提供者	福島大学人間発達文化学類	髙橋 純一
話題提供者	岩手大学人文社会科学部	川原 正広
話題提供者	常葉大学教育学部	百瀬 容美子
指定討論者	山形大学地域教育文化学部	大村 一史

＜招待講演＞　16:00～17:20

知覚と認識の多様性からイメージ研究を考える

司会者・企画者	長崎総合科学大学	松岡 和生
講演者	立命館大学総合心理学部	高橋 康介

＜総会＞　17:30～18:00

＜懇親会＞　18:30～20:30

第 2 日目　12 月 10 日（日）

＜研究発表 2＞　9:30〜11:10　　　座長　藤木 晶子

9:30-9:50
1, HVdC 分類に基づく大学生の web 夢日誌の内容分析
—日本人大学生と米国標準データ及び通常夢と悪夢との比較—
岩手大学総合科学研究科　○　劉 一帆
長崎総合科学大学　松岡 和生

9:50-10:10
2, 悪夢の想起と性格特性およびストレスコーピングの関連の検討
東洋大学大学院社会学研究科　○　施 竣訳
東洋大学社会学部　松田 英子

10:10-10:30
3, 明晰夢体験者における夢見特性の検討
岩手大学人文社会科学部　○　HE YIJUN
長崎総合科学大学　松岡 和生
岩手大学　川原 正広

10:30-10:50
4, 明晰夢の想起と性格特性およびストレスコーピングの関連の検討
東洋大学社会学部　○　松田 英子
東洋大学大学院社会学研究科　施 竣訳

10:50-11:10
5, VVIQ と夢想起頻度・感覚別体験頻度の関係性の検討
-Aphantasia の見る夢はセピア色か？-
文教大学人間科学部　○　岡田 斉

＜研究発表 3＞　11:30～13:10　　座長　宮崎 拓弥

11:30-11:50

1, 幼少期のファンタジーの体験の強度がレジリエンスや自我強度に与える影響について

龍谷大学　○ 堀内 詩子

11:50-12:10

2, 物語への没入体験はイメージの個人差とどう関連するか

畿央大学教育学部　○ 小山内 秀和

12:10-12:30

3, 画像マッチングを用いたイメージの鮮明さの測定

立命館大学人間科学研究科　○ 善本 悠介
立命館大学　吉村 直人
立命館大学　高橋 康介

12:30-12:50

4, 視覚イメージ鮮明性質問紙におけるイメージ生成方法の違いに関する一検討

北海道大学大学院文学研究院　○ 今井 史
北海道大学大学院文学研究院　小川 健二

12:50-13:10

5, イメージ能力がイメージ鮮明度を予測する場面について

茨城大学　○ 本山 宏希
茨城大学　佐藤 瞳
北海道大学　菱谷 晋介

シンポジウム　[第 1 日目　12 月 9 日（土）　14:15～15:45]

イメージ研究と特別支援教育

司会者･企画者･話題提供者	福島大学人間発達文化学類	髙橋　純一
話題提供者	岩手大学人文社会科学部	川原　正広
話題提供者	常葉大学教育学部	百瀬容美子
指定討論者	山形大学地域教育文化学部	大村　一史

＜企画趣旨＞

小学校，中学校，高等学校における教育と同様に，特別支援教育においても心的イメージあるいは想像（創造）を用いた指導・支援の必要性が指摘されている（たとえば，特別支援学校学習指導要領）。しかしながら，これまで心身障害児・者のイメージ特性について話題に取りあげられる機会は少なかった。今回のシンポジウムでは，知的障害，視覚障害，聴覚障害，および発達障害に着目し，心身障害児・者のイメージ特性およびそれらの知見の指導・支援への援用について議論したい。

【話題提供要旨】

「知的障害者を対象としたイメージ研究の概観」　髙橋 純一（福島大学人間発達文化学類）

知的障害を「認知能力の障害」と捉えれば，知的障害者のイメージ能力は定型発達者に比べて弱い可能性がある。先行研究を概観すると，知的障害者のイメージ能力が定型発達者よりも弱いと報告している研究もあれば，定型発達者と同等と報告している研究もあり，はっきりとした見解は得られていない。また国内のイメージ研究あるいは特別支援教育において，知的障害者のイメージ能力に関する研究は少ないのが現状である。一方で，特別支援学校学習指導要領で見られるように，知的障害者に対するイメージ（想像や創造も含む）を用いた指導・支援方法に関する記述は多く見られる。このような現状を踏まえ，今回の発表では知的障害者を対象としたイメージ研究を概観し，話題提供者が行った予備調査の結果を報告する。その上で，特別支援教育（特に，知的障害教育）の指導・支援におけるイメージの使用について，学習指導要領の観点も取り入れながら考察する。

「聴覚障害者における心的イメージ処理」　川原　正広（岩手大学人文社会科学部）

聴覚障害者の情報処理に関してはこれまで，聴覚的な感覚情報の欠如を補う代償反応として視覚情報処理能力が発達するという感覚保障説が有力視されてきた（Morere, 2002）。しかしながら言語型－視覚型認知スタイルの傾向を聴覚障害者と健常者の間で比較した研究からは，聴覚障害者が健常者より視覚型の傾向が高いことを示す結果を報告した研究（e.g., Lane, 2011）がある一方で，聴覚障害者と健常者の間に視覚型の傾向に差がないことを示す結果を報告した研究（e.g., Arnold & Mills, 2001）もあり，聴覚障害者の視覚イメージ処理の傾向や優位性については一致した見解は得られていない。今回の発表では，聴覚障害者の視覚イメージ処理について検討した研究を概観し，その後，話題提供者が現在行っている聴覚障害者の表象スタイルを測定する質問紙を開発する研究の内容について報告する。

「視覚障害者のイメージ特性とその機能」　百瀬　容美子（常葉大学教育学部）

教育現場では主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善（文部科学省，2021）が求められ，中でも「メタ認知」に注目が集まっている。「メタ認知」とは自分の頭に浮かんだ考えを客観的に問い直すこと（三宮，2020）を指し，学習場面で有効となるイメージ生成とその活用法といっても過言ではないと考えられる。特に視覚特別支援教育では，視覚による情報収集の困難に対し，的確な概念形成と具体的なイメージ生成が希求されてきた（視覚障害教育ブックレット編集委員会，2018）。ところが視覚特別支援教育におけるイメージ研究は国内外を通して極めて僅かしかなく，学習上のイメージ特性やその機能の理解には議論の余地が残る。そこで本シンポジウムでは，国内外の研究及び実践の動向を紹介しつつ，「メタ認知」の観点から視覚障害者のイメージ特性とその機能について考察する。

招待講演 ［ 第 1 日目 12 月 9 日（土） 16:00～17:20 ］

企画者・司会者: 松岡 和生（長崎総合科学大学）

知覚と認識の多様性からイメージ研究を考える

講演者: 高橋 康介（立命館大学総合心理学部）

知覚とイメージは定義としては異なる心的現象を指すが，これらは相互に干渉し合うこともあり，メカニズムの共通性も示唆されている (e.g., Ishai & Sagi, 1995) 。∵が顔に見えるというパレイドリア現象など (Takahashi & Watanabe, 2013, 2015) 視覚イメージと捉えるべきか知覚と捉えるべきか曖昧な現象も存在する。

視覚イメージはある程度自由に操作可能であり，また直観像やアファンタジアなど視覚イメージを含む心的過程に大きな個人差があることはよく知られている。一方で従来の知覚心理学では，知覚像は現実の最適な近似であり(例えばヘルムホルツの無意識的推論)，故に不自由なものとして理解され，また個人差や多様性よりも普遍性に目を向け研究が進められてきた。しかし講演者らの最近の研究では，棋士や瞑想熟達者の報告から知覚像がある程度制御可能であることが示唆されている。アフリカ諸地域を含む世界各地を対象とするフィールド実験研究からは，絵文字の表情認知やパレイドリアの地域依存性などが明らかとなり，知覚や認識の多様性が従来考えられてきたよりも大きい可能性が示されている (Takahashi et al., 2017)。古典的な錯視についても，一般的な錯視効果とは逆の効果が安定して生じる人がいる。

以上の背景を踏まえ，本講演では講演者がこれまで行ってきた錯視，錯覚，顔認知やパレイドリアなどの知覚現象について，知覚像制御および知覚の多様性という観点を取り入れて知覚の構造を考える（高橋, 2023）。その上で，これらの多様な知覚研究がイメージ研究にどのように寄与できるのか，知覚とイメージはどのような関係にあるのか，などと問題について，オーディエンスも交えて幅広く議論を行いたい。

Ishai, A., & Sagi, D. (1995). Common Mechanisms of Visual Imagery and Perception. *Science*, *268*(5218), 1772–1774. https://doi.org/10.1126/science.7792605

Takahashi, K., Oishi, T., & Shimada, M. (2017). Is ☺ Smiling? Cross-Cultural Study on Recognition of Emoticon’s Emotion. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, *48*(10), 1578–1586. https://doi.org/10.1177/0022022117734372

Takahashi, K., & Watanabe, K. (2013). Gaze Cueing by Pareidolia Faces. *I-Perception*, *4*(8), 490–492. https://doi.org/10.1068/i0617sas

Takahashi, K., & Watanabe, K. (2015). Seeing Objects as Faces Enhances Object Detection. *I-Perception*, *6*(5), 2041669515606007. https://doi.org/10.1177/2041669515606007

高橋 康介（2023）. なぜ壁のシミが顔に見える